

会 議 要 録

会議名称 平成24年度 第二回 市史編さん委員会
開催日 平成25年3月27日（水）午後1時30分～2時50分
会 場 佐倉市役所1号館3階会議室
出席者 ・市史編さん委員
近森正委員 堀越正行委員 白土貞夫委員 内田儀久委員
有澤要委員
(事務局 田辺茂彦総務課長 丸島正彦副主幹 土佐博文副主幹)
記録作成 丸島正彦

会 議 内 容

- 会 議 (1) 『佐倉市史』考古編の編さん状況について
- ・専門部会の活動について(資料①)
〔近森委員〕
専門部会（年4回）の会議内容及び時代別部会による会議・調査（2月末まで50回実施）の状況を報告。
 - ・執筆要綱の改正について(資料②)
〔事務局〕
執筆要綱の改正について説明及び報告
専門部会と事務局による原稿編集作業の結果、具体的な表記等について一部改正が必要となり見直しを行った。また、併せて本編、資料編の各内容の名称と構成について整理した。
 - ・考古編の仕様及び体裁について(資料③)
〔事務局〕
考古編の仕様及び体裁について説明
表装や題字等の基本的な体裁は、今までの『佐倉市史』を踏襲するが、考古編の特徴から、A4判横書き、本編と資料編の1ケース2分冊とする。資料編の内、集成編と分析編はCD-ROMに収録。口絵の巻頭カラー写真の他、一部にカラー印刷の図版が挿入される。印刷頁数については合計で900頁弱となる予定。
〔内田委員〕
考古編をとおして、どのようなことが佐倉の特徴として見えてくるのか。
〔近森委員〕
旧石器から中近世まで、佐倉は広範囲に他の地域と関わりをもちながら発展してきた。そうしたことが、石器や土器、埴輪の研究分析などからも明らかになってきている。また、印旛沼から広がる低湿地と乾燥した下総台地という地理的な要因が、各時代の佐倉くらしの様相を特徴づけている。
考古編では、各時代ともこうした点に留意して、他の市史にはない視点から佐倉の地域性や土地柄が示されている。

- ・「本編」原稿について(資料④：本編の序章から第6章の原稿部分)

[事務局]

本編原稿について説明。(序章と第2章の内容については、執筆者の近森委員と堀越委員が説明)

序章の「佐倉と考古学」から第1章旧石器・第2章縄文・第3章弥生・第4章古墳・第5章奈良平安・第6章中近世から近代までの構成で、原稿部分だけで390頁。執筆者については、専門部会員7名の他8名、合計15名が原稿執筆。

専門部会において、原稿内容の調整を行い、編集作業を実施した。一部未校正ではあるが現在のような状況(資料④)に原稿は整った。なお、考古専門外の識者にも本編原稿を見て頂き、ご意見を頂いた。その内容については、専門部会で検討し、執筆者と確認して再編集を行った。

[白土委員]

私見ではあるが、「残念である」「期待する」「敬意を表したい」等の主観的な表現については、市史にそぐわないのではと思う。まだ一部、同様な表現が原稿に見られるようであるが、皆さんのご意見を伺いたい。

→ ご指摘の意見については、専門部会で検討した。曖昧な表現については、なるべく修正したが、考古学の場合、推定的な意見も多く、主観的な表現になってしまうケースがあり、執筆者と再確認を行っている。

[堀越委員]

資料は、客観的に揃えるが、その解釈となると断定的にはいえない部分があり、全てを「である」と表現することは難しい。考古学の分野では、確定した事実よりも、様々な解釈があることが多い。断定して、解釈の押しつけになってはいけないので、少し柔らかい表現としてある。

[近森委員]

発掘の調査結果など、考古学的事実の記載は明確に「である。」とする。ただし、その解釈については、個人的な解釈となる場合も有りうるので、曖昧にならざるを得ない。これについては、執筆者の表現を尊重している。また、将来に、全く違う事実が現れる場合もあるので、断定的でなく、ある程度の予測や推測を含めた表現となっている。それ以外の個人的な感想や謝辞等あまりにも主観的な部分については、編集作業の中で今後も校正していく。

[事務局]

本編原稿については、内容や文章表記等、気づいた点や意見があれば、4月末までに事務局までご連絡頂きたい。

- ・「資料編」原稿について

[事務局]

資料編原稿について説明。(資料編の内遺跡編原稿及び集成編・分析編の一部原稿を回覧)

資料編は、市内6地区77遺跡を紹介する遺跡編と、遺物と遺跡を紹介する集成編、分析結果を掲載する分析編からなっている。遺跡編及び集成編の原稿執筆者は、8名の専門部会員の他15名の執筆者により執筆。

なお、集成編の集成表と集成図版、分析編の分析結果報告文とデータ図版・写真につきましては、製本頁数の関係から、CD-ROMでの収録を予定している。

(2) 今後の予定について

[事務局]

5月上旬に専門部会を開催し、5月中に考古編印刷製本の入札を実施予定。

印刷工程については、6月に原稿入稿して、校正については4校以上、色校正1回以上実施して、3月末の刊行を目指す。発行部数1,000部を予定。

来年度予算は、「佐倉市史調査刊行事業」として、印刷製本費を含め、9,861千円。

[近森委員]

入稿後でも修正可能なので、5月以降でも意見があればできるだけ頂きたい。

[白土委員]

図版がレイアウトされた校正段階で、一度拝見したい。

[事務局]

入稿後、図版が入った初校の段階で確認をお願いしたい。